

事業所名

こども発達支援センターのぞみ 児童発達支援

# 支援プログラム

作成日

令和6年

10月

31日

事業所理念		子どもたちやその家族が、地域で楽しく安心して生活していけるために子育ての応援をします。子どもたちをとりまく地域の応援団を増やしていく、あたたかい地域づくりに貢献します。									
支援方針		子どもたちの「できる!」「楽しい!」を見つけ、心も体も満足する活動を提供します。その中で自分のことをよく理解し、自分なりに周囲と関わっていける経験を積み重ね、自己実現していけるよう支援していきます。									
営業時間		8	時	30	分から	17	時	30	分まで	送迎実施の有無	あり (保護者による送迎もあり)
支 援 内 容											
本人支援	健康・生活	一日の流れを、視覚化するなど「〇〇したら〇〇が出来る」と言った経験を積み重ねることで、見通しを持って取り組める力がつくよう支援します。朝の支度・トイレでの排泄・昼食後の歯磨き・帰りの片付けなど身の自立や自分の役割を理解し取り組むことが出来るよう支援します。									
	運動・感覚	プレイルームや遊戯室・園庭の活動を通してしっかり身体を使い運動を行います。感覚ニーズをしっかりと満たす活動を行うことで心身の健康を図ります。遊具での活動や道具操作のある活動を通して、様々な運動や感覚あそびが楽しめるよう支援していきます。移り行く季節を感じられる様に、四季折々の遊びを取り入れ五感に働きかける支援をします。									
	認知・行動	多職種の職員が知恵を出し合い多面的な評価をし、本児を理解していきます。本児にとって最善の方法を常に思慮していきます。周囲の支援者の理解を得ることにより本児が過ごしやすい環境を整えていきます。									
	言語 コミュニケーション	本児の表現方法を理解し、伝えたい思いを汲み取り、共感していきます。また、表現方法の幅が広がり、友達や支援員と豊かにコミュニケーションがとれ、情緒が安定して過ごせるように支援します。生活シーンの中で、相手に自分の思いが届くようそれぞれの表出方法を尊重し支援します。									
	人間関係 社会性	生活の中でのルールを理解し、みんなと一緒に過ごす心地よさを知らせます。自分の経験を通して「良い気持ち」「嫌な気持ち」を感じることで相手の気持ちを理解できるように支援します。適切な挨拶や返事の大切さを知らせ社会性を育みます。									
家族支援		継続的な面談を行い、必要に応じて家庭訪問を行います。相談は随時受け、保護者が抱え込み孤独にならないようにしていきます。				移行支援		保育所・幼稚園・こども園等スムーズな連携を行います。就学前の子どもには就学に向けての教育相談をはじめとする連携支援を行います。			
地域支援・地域連携		三原市地域自立支援協議会児童支援部会を通じて、三原市内にある他施設との連携を行います。服薬やリハビリを必要とする子ども、診断が必要な場合など医療連携を行います。療育の必要な相談は随時受け付けます。				職員の質の向上		定期的に職員研修を行ったり、多職種のチームで情報を共有し合いながら日々の支援を行います。			
主な行事等		プール (7月~8月) 運動会 (10月) 芋ほり・クッキング (11月) クリスマス会 (12月) カフェごっこ (12月) お買い物ごっこ (1月) お楽しみ会・卒園式 (3月) ※内科健診 (年2回) 歯科検診 (年1回)									